

# 星屑

2007 Nov.  
No. 393

17P/ ホームズ彗星 2007.11.03. 22:47:38 撮影：熊本県民天文台  
41cm反射、EOS20Da、3分露出3枚から合成



17P/Holmes

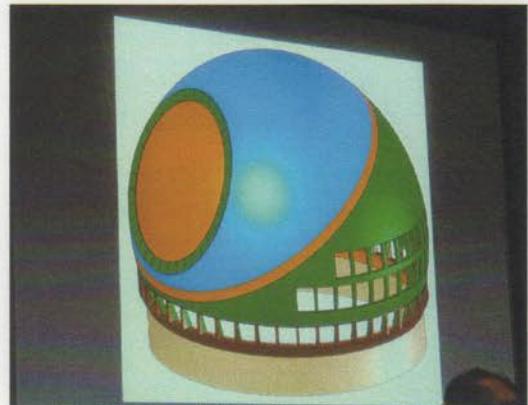
03/11/2007

熊本県民天文台

10/  
9(火)~12(金)

福岡市の国際会議場などを舞台に開催された

# 第7回 東アジア天文学会議で 「小さなアマチュア天文台 の 大きな貢献」を 発表！



## ◆ 東アジア天文学会議

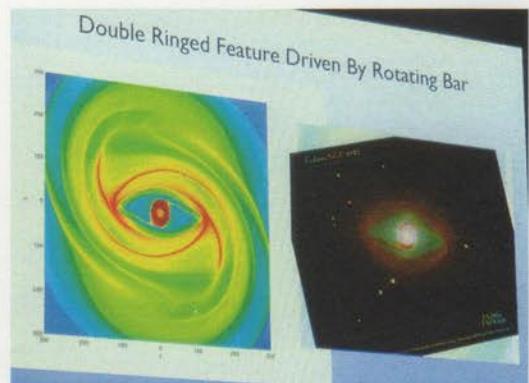
3年に一度くらいの頻度で開催されている天文学の国際会議。日本・中国・韓国・台湾が中心になり、さらに周辺の国や地域を結集して開催されているそうです。主要国間の持ち回りで開催され、第7回にあたる今回は日本が開催国。アジアの国々から近く、交流の実績もある福岡県での開催になりました。

「せっかく九州で開催されるのだから」と県民天文台にも参加・発表するよう要請がありました。香川大学教授で天文教育普及研究会の会長を務めていらっしゃる松村さんから、参加を要請するメールを頂いたときは驚きました。しかし、せっかく声がかかったのですし、天文学の最前線やアジアの現状を知るまたとない機会、喜んで参加することにしました。

## ◆ 天文教育や普及も

これまでの6回は、天文学の研究者が主体の会議だったようですが、今回は10以上の国と地域から総勢150名もが参加。教育・普及に取り組む人達も加わった会議です。

公開天文台やプラネタリウムがようやく稼働



21世紀に解かれるべき宇宙の謎とは？

し始めた感のあるアジア諸国に対して、日本での豊富な取り組み事例を知ってもらい交流を深めようと企画されたのかも知れません。

そんな内容で発表や議論が進むのなら、熊本県民天文台のユニークな活動は、格好の事例になるでしょう。大きな資金を投入できないアジアの国々にとって、きっと役に立つ情報を提供できるはず。そう考えて、発表する内容の検討にかかりました。

各国から大勢参加していました



#### ◆ 4日間の会議に3日間参加しました

初めの2日間は、各国が天文研究の最前線を報告し合い、共同観測・研究などに向けての取り組みが提案されたりしました。私は、2日目の午後から会議に加わったのですが、興味深い発表と、活発な質疑を通して、アジア各地での取り組みを肌で感じました。

3日目からは、テーマが天文教育や普及の話題に移りました。中国やインドネシアでは科学館やプラネタリウムのオープンが相次いでいるようです。その現場で天文教育や普及に取り組む方々による事例や手法の発表には、真剣さと熱気がこもっていると感じました。

マレーシアでは建設された天文台をインターネットを通じてコントロールできるシステムを導入していて、アジア各国の研究者に「ぜひ使って欲しい」と呼びかけていました。

中国のチベット高原に大型望遠鏡を設置しようと考えているグループもあって、現地で進行している調査活動も報告されていました。



#### ◆ 4日目、福岡県立青少年科学館で発表

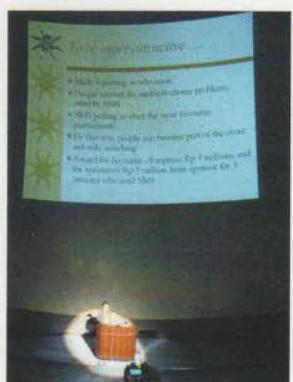
私は「小さなアマチュア天文台の大きな貢献」という題で、県民天文台の取り組みを発表しました。

発表は、1) 設立からこれまでの経過、2) ユニークなスライディングルーフ式の観測室と運営の工夫、3) 25年もの活動を支えている人や情報のネットワーク、4) 資金や実績などの数値分析、の4部構成。

前日までの討議で感じたアジア各国の現状なども考慮して、作っていったプレゼンテーションを大幅に改訂して発表しました。

おかげで前夜は少ししか眠れず、当日は朝食もとらずに改訂作業。かなりハードな対応でしたが、予算の規模を解説したときには会場が驚きの声に包まれるほど、高い関心が得られきました。

ポスターセッションの会場でも質疑が



**10/28(日) 青空の中の「金星」や「ベガ」に大歓声！**

# **「火の君祭り」今年は500名！**

**例年を超える来台者数！お土産写真も大人気！**

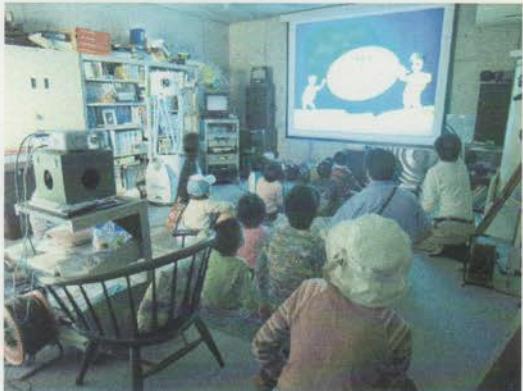


## ◆ 今年は500人が来台

例年の来台者数を上回る盛況でした。

お天気が良かったこと、金星やベガが見えて、お客様に好評だったこと、天体写真プレゼントの大盤振る舞いが口コミで伝わったことなど、いろんな要因がきっと相乗効果を生んだのでしょう。天文台への入口に大きな看板が立っていて、分かりやすかったせいでもあるのでしょう。

祭りの実行委員会による集計では、「火の君祭り」そのものの参加者数は例年より少なかったそうですが、県民天文台は一日中多くの来台者で賑わっていました。



## ◆ 電子紙芝居もなかなかの人気

1階のミーティングルームでは「電子紙芝居」を連続上映しました。「城南町の民話シリーズ」4作と、「恐竜と星空」の番組を、くり返し上映したわけです。

生語りで一日中上演するのは大変ですから、ナレーション付きでDVDにまとめたものを持参、それを連続して再生しました。

ところが、今年は城南町の民話や歴史や遺跡群に興味を持った方々が大勢会場においてになって、次々と質問が出たり、飛び入りでの解説があったり、とてもおもしろい展開になりました。

もしかしたら、歴史民俗資料館よりも人気があったのではないかでしょうか？

## ◆ 講演会用に準備した写真もプレゼント

大勢の来台者に喜んでもらおうと「火の君祭り」ように準備した写真だけでなく、先月の講演会用に準備していた写真の残りも使いプレゼントしました。6種類のプリントから好きな写真を選んでもいましたから、とても人気がありました。一般の方の好みがはっきり分かって、配っている方も楽しかったです。



**10/24(水) ホームズ彗星(17P)がバースト！**

## **「40万倍の大増光！」で肉眼彗星に パソコン画面に定規を当てて、大きさの変化を測定！**

今月の表紙の写真は、11月3日（土）夜に撮影した17P/ホームズ彗星。41cm反射に、一眼デジカメEOS20Daを取り付け、3分露出で撮影した画像3枚を使って画像処理しました。

ローテーション・グラディエント法と呼ばれる処理をしたところ、核周辺にまるで噴水のように吹き出したガスやチリのジェットが浮かび出てきました。過剰な処理にならないよう、未処理の画像ともう一度重ね合わせて、掲載した写真に仕上げています。

「増光した！」というニュースが伝わった、10月24日から撮影を続けているのですが、26日までの3日間の画像をもとに「コマ」が広がっていく速度を計算してみたら、500m／秒程度の速度だと分かりました。26日夜のコマの広がりは、直径21万kmほどだったのですが、2週間以上経った今でも、毎日ほぼ同様の速度で広がり続けています。明るさもまだ衰えません。小さな彗星のはずなのですが、すごい彗星ですね！

### **ミューイ天文台が指定管理者制度に移行します！**

## **熊本県内でも「公開天文台」が大きく変化**

山田（木戸）さんからの連絡によると、天草市（旧龍ヶ岳町）のミューイ天文台は、来年度から「指定管理者」による運営へと移行するそうです。

10月19日に、受託希望者向けの説明会が開催され、11月5日から9日まで、運営プランについて応募書類の受付が行われました。

応募があったプランが、今後、検討委員会によって採点・評価され、早ければ11月中にも受託者が決定になるのだとか。

決定になれば2008年4月から3年契約で、委託管理が始まるそうです。新しい制度のもとでの運営がどんな内容になるのでしょうか、大きな不安を持って注目しているところです。

**11/3(土) 武雄市の佐賀県立宇宙科学館で**

## **天文教育普及研究会の九州支部集会が開催**



←  
武雄市の  
宇宙科学館

→  
講演が始まると参加  
者は2倍に増えた



## 報告「天文教育普及研究会九州支部集会」

白鳥

11月3日に佐賀県立宇宙科学館で開かれた天文教育普及研究会九州支部集会に出席してきました。当日は下記のようなプログラムでしたが、記念講演として山岡さん（九州大学）の九州の特性（人なつこい。話が長くなる等）を活かした天文教育普及活動して山岡研では「サイエンスカフェ」ならぬ「サイエンスパブ」をときどき開いているそうでした。つまり酒を飲みながらサイエンスの話をしよう！との試みだそうです。次回は11月21日に福岡市内のパブ（居酒屋？）で開催する予定とのことでした。残念ながら予約制だそうです。私のような乱入者を警戒したか？

また、許斐さん（佐賀県立宇宙科学館館長）からは佐賀県立宇宙科学館の運営状況の詳しい説明と、2009年のガリレオの天体観測400周年にあわせてガリレオが作った望遠鏡の仕様に合わせた望遠鏡作りのワークショップを開こうと計画しているのだとそうで、それについての説明がありました。石橋財団から助成をいただいてレンズ研磨のための装置を年度末までにいれることができたそうとして、稼働し始めました。皆さん、積極的に参加してください。

一般発表では艶島さんが2件（「指定管理者制度の採用へ（ミューイ天文台の事例）」「小技で広げる、デジカメで天文学」）発表され、指定管理者制度の抱える問題点と他の天文台ソサエティへの影響をさらに天文台ですでにおなじみのデジカメでこんな天文学ができるよ。見学者が興味を持ってくれるにはこんな努力をしているよとの「非常に興味深い」発表をしていただけました。私は下記標題の特別講演（詳細は新連載とともに触れていくでしょう）と「Holmes彗星を授業教材に」を発表させていただきました。非常に会自身は好評で当初用意していた席では足りなくなるほどの参加者数となりました。

来年は11月頃に鹿児島での開催となります。その前に8月には熊本で年会もありますので両方とも積極的に参加してください。期待しております。

---

### 今年の天文教育普及研究会九州支部集会プログラム

1. 総会
  2. 記念講演 「天文教育普及における九州の特性」 山岡 均
  3. 特別講演 「指定管理制度と佐賀県立宇宙科学館の運営  
(指定管理制度の状況)」 許斐修輔
  4. 特別講演 「ここまでわかった系外惑星研究」 白鳥 裕
  5. 一般発表
  6. プラネタリウム体験投影
- 閉会後 天体観望会（宇宙科学館・希望者のみ）

10月14日にグランメッセ熊本で開かれた「平成19年度ストップ温暖化大作戦私もやるばい 減らすこつCO<sub>2</sub>コンテスト」で熊本県民天文台として発表を行ってきました。会場は中会議室でしたが、ほぼ満杯になるような盛況ぶりでした。最初に2~3回、「どなたですか?」「なんと呼べばいいですか?」と聞かれました。発表は5分ほどとかなり短かく、全部で6項目ほど触れてほしい点があつて大変でしたが、なんとかお役はこなせた(はずです)。結果としては残念ながら「次点」でしたが、優勝とは接戦だったそうで健闘したと自負しております。

もうすこし発表時間があれば「優勝」できたかも。



最優秀賞に決まり、表彰される「水俣版ISO」の担当者(左)=益城町

## 減らすCO<sub>2</sub>コンテスト 最優秀賞に「水俣版ISO」

「水俣版ISO」は、同市が一九九九(平成十一年)年に始めた省エネやごみの減量など環境負荷が監査、評価するシステム。行政機関にとどまらず、学校や民間企業、畜産農家など、市民の取り組みに拡大している点が評価された。県代表として来年二月の全国大会(東京都)に出品される。

地球温暖化防止の取り組みやアイデアを発掘する「私もやるばい 減らすCO<sub>2</sub>(こつ)コンテスト」の作品発表会と最終審査が十四日、上益城町で開かれた。環境省が特定非営利活動法人くまもと温暖化対策センター(宮原美智子理事長)に委託して実施する「一村一品・知恵の環(わ)づくり」事業の一環。

応募十三点のうち審査を通過した九点の代表者らが、エコドライブへの取り組みや、マイ箸(はし)を活用した環境教育などを発表。同事業選定委員会(委員長・藤木泰士県環境センター館長、八人)が地域の特性や事業の発展性、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の削減効果など六項目を審査した。

▽優秀賞 「防犯灯をつけてCO<sub>2</sub>削減」県民天文台(下益城郡城南町)、つるしる菜の花部会(八代市)マ・アイデア賞「マイ箸でCO<sub>2</sub>削減」エコ村伝承館(天草市)

火曜日(10月16日)の熊本日日新聞より

もうすこし頑張ればこの写真の主役はぼくだったかも。

# ☆系外惑星の群像たち（その1）☆

白鳥裕\*・横尾広光\*\*

## 1. はじめに

このところ、紀行文ばかりを書いていましたので、すっかり「紀行文のお兄さん」のようだった、白鳥です。今回、いわゆる「世間のしがらみ」というものでこのたび新連載を始めることになりました。しばらくは紀行文との平行連載となりますが、どうかお楽しみください。さてでは、この連載はどのような中身になるかですがここ12年ほどの間に250個を越える系外惑星（太陽系以外にある惑星）が見つかってきました。それらの惑星たち一つずつが持つ「個性」に迫れたらと考えております。

## 2. 発見までの経緯

すでにご存じの方も多いでしょうが、系外惑星の探査は主に主星が惑星に引っ張られて起こるふらつきを観測する「ドップラー法」と日食のように惑星が主星の前を横切るときに起こる減光を観測する「トランジット法」によって行われています。1989年HD114782、1992年PSR1257+12の惑星発見の報はあるものの系外惑星の最初の発見と言われているのは1995年のメイヤー（Michel Mayor）とクエロズ（Didier Queloz）の51Peg（ペガサス座51番星）とされています。では、メイヤーとクエロズはどうやって発見に至ったでしょうか？このことについては、クエロズが系外惑星発見10周年を記念して行った講演に詳しい<sup>1)</sup>。クエロズたちはドップラー法によって系外惑星を発見したのですが、その原理となった考え方は1953年にはすでにフェルゲット（P. Felgett）によって提案されていました。クエロズがこの方法を使ってプロバンス天文台（OHP：Observatoire de Haute Provence）で星のドップラー・シフトでの観測を始めたのは1977年のことだったそうです。その時は、彼は太陽ほどの大きさの星が形成する連星の性質、とくに非常に低質量な星の数がどれだけあるかの研究をおこなっていました。その後、望遠鏡を大きくしたり観測装置の改良を行ったりしていき、1994年には速度分解能が13~15m/sに達していました。このような速度分解能と、もともと低質量な星に興味を持っていたクエロズが更に低質量の「惑星」に興味を持っていったのは自然の成り行きだったのでしょう。1994年の時点ではテキサス、リック、アリゾナ、UBC Vicの4つのグループがすでに惑星探査を行っていました<sup>2)</sup>が、プロバンス天文台のグループはこれに肩を並べる精度を手に入れたことになります。この観測システムが稼働し始めた年の年末(1994年)にはすでに51Pegは周期変動を捉えていましたがこれが伴星によるとすると、木星の半分の質量を仮定した場合約4.2日周期で主星の周りを回っていることになるため、にわかに信じられずより慎重な状況証拠を集めることになったようです。次の観測シーズンの始まった1995年の7月初旬にもう一度観測してみたところ、やはり周期的な変動が見られたことから、その年の秋に惑星発見を彼らは公表したのでした。

この発表から約1年間の1996年の末までにはサンフランシスコ州立大学／リック天文台のマーシー (Geoffrey Marcy) とバトラー (Paul Butler)、テキサス大学のコクラン (William Cochran) とハッツェス (Artle P. Hatzes)、アリゲニー天文台のゲイトウッド (George Gatewood) などによる発表が相次いで、惑星系は一気に9個に増えました。

#### 参考文献

- 1) Mayor, M., & Queloz, D. 2005, in Tenth Anniversary of 51 Peg-b,  
Eds. L. Arnold, et al., 1-9.
- 2) Walker, G. A.H., Walker, A. R., Irwin, A. W., et al., 1995, Icarus, 116, 359-375.

\* : 九州東海大学

\*\* : 杏林大学



図1：メイヤー（右）とクエロズ（左）

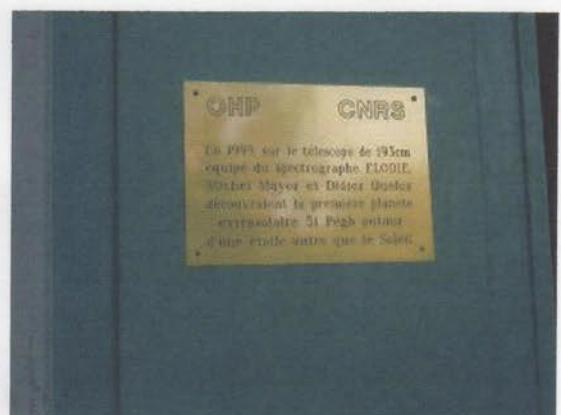


図2：プロバンス天文台193cm

観測ドームの入り口につけられた  
系外惑星発見10周年を記念するプレート

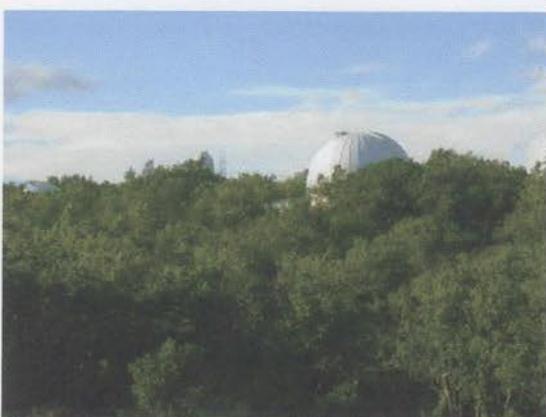


図3：プロバンス天文台（OHP）

手前のドームが193cm望遠鏡



図4：193cm望遠鏡

大きすぎて全部が入りませんでした

# 熊糸祭を終えて

今回、私たち天文部は熊糸祭に出展し、大盛況のうちに終えることができました。

この文章を書きながら、ちょうど去年の今頃、天文部が廃部の危機に陥っていた時のことを思い出しています。

それまでの私たちは、天文部とは名ばかりで、私も含め「観測などしたことがない。」という部員がほとんどでした。そのような状況の中で、私は活動に対して、方向性が見えず、最初は辞めようと思っていました。そんな折、現副部長の前田から、「もう1度やってみない?」という声をかけてもらいました。あの一声で、私は「もう1度この部活をやってみようかな。」と思い、退部を思いとどまりました。

そして、同じ思いで今の3・4年が集まりました。集まったのはいいけれど、今までの活動が活動であつただけに、やはり何をしていいか分からぬという状況でしたが、「どうせやるなら、目標が必要だ。まず、大学公認のサークルにし、熊糸祭に出展することが一番現実的で、自分たちの力が発揮できるのではないか?」と考え、その時の部員に提案し、みんなが賛同してくれました。それから、「公認化するにはどうすればいいか?」という目標ができ、大学の教務課へ聞きに行き、部則と基本方針、そして顧問の先生が必要だという話を聞きました。

この目標を達成するために、まず基本方針を考えようということになりました。これを作ることが最も難しく、そして、最も苦労しました。持ちテーマ(各人が天文学について興味を持ったこと)を決め、それについて調べ、この成果を熊糸祭で発表しようという基本方針が決定しました。

## 熊本大学天文部部長 菊枝信孝

次に、部則です。これも、ゼロの状態から始めました。今まで曖昧だった部長、副部長定義を決め、天文部の「これだけはしないようにしよう。」ということを列挙していき、今の部則が完成しました。

そして、顧問の先生です。OBの石坂先輩や岩川先輩のお世話で、理学部の磯部博志准教授を紹介してもらい、顧問就任のお願いに行き、快諾をしていただきました。

こうして、まず最初の目標をクリアして、私たちは熊糸祭に向け土台を完成させました。

そして、4月になり、現在の1年生を迎え入れ、新生天文部が本格的に始動しました。想像以上に入部してくれて、部が活発になりました。基本方針で決めた持ちテーマごとに班分けをしました。できた班は、太陽系班、メシエ班、プラネタリウム班、天文と暦班、望遠鏡班の5つです。

この5つの班ごとの活動を中心となりました。毎週水曜日だけという活動でしたが、3・4年生を中心によくまとまり、みんなの方向性が1つになり、熊糸祭に向け部員一丸となり頑張りました。

私は太陽系班に所属していたので、太陽系班のことを書こうと思います。太陽系班は新入生を2人迎え入れ、活動を始めました。そもそも、太陽系について調べようと思ったのは、今年の2月に初めて自分ひとりで土星を夜空に見つけることができるようになり、あれが土星だと分かると、なんだかうれしくなって、じゃあ土星について調べてみようと思ったことがきっかけです。

最初はPower Pointを使って各惑星につ

いてまとめていっていたのですが、どんな形で発表するか決めることができず、方向性を見失いかけていました。私がしっかりとゴールが見えていなかったので、1年生をうまく引っ張っていくことができませんでした。太陽系班が始動を始めたころ、1年生は太陽系にまつわる神話について調べるということで動き出しました。しかし、私がうちの班の1年生に具体的なことを指示することができず、気づいた時には彼女たちの活動は、私が作るスライドの分かりにくい部分の指摘というものになってしましました。

せっかく熊糸祭に出展するのだから、何か形に残るものを作ってもらいたくて、熊糸祭開催1か月前の10月に「神話について何でもいいから、形に残るものを作らないか?」と提案しました。すると、わずか1週間足らずで、熊糸祭に出展した雑誌を私の前に作って持ってきてくれました。1年生の勢いに私の方が刺激され、ヤル気がいつそう出ました。そして、「後輩も先輩を刺激することのできる活発な部活になってきている。」と実感しました。

どの班も頑張っていましたが、特にプラネタリウム班の玉那霸、田崎は毎週のように苦労していたのを覚えています。

そして、そんな日々の活動の成果を発揮する熊糸祭を迎えるました。多くの来場者を迎え、3日間で展示、プラネタリウム合わせ延べ300人ほどのお客様に来場していただき、中には「面白かったです。」とか「写真きれいでした。」など、お褒めの言葉をかけてくださる方もいらっしゃいました。

また、初代天文部部長の有馬さんを初め、多くのOB・OGの方にも来場していただきました。来場される先輩方からは「よく頑張ったね。」とか「感動したよ。」とか声をかけていただきました。さらには、有馬さん

からOB会が私たちの活動をバックアップしたいとの連絡もあり、これまでの私たちの活動がOB会を動かしたという事実に「やってきた事が間違いじゃなかったんだ。」という実感がわきました。

ここまで持ってくるのに、私は幾度となく、部長を辞め、ついには天文部を退部しようとさえ思つたこともありました。そして、1度だけ辞表を提出したことがあります。その時、坂元が「お前におれたちはついていくから、最後まで頑張れ。」という声を、玉那霸が「途中で投げ出すなんてカッコ悪い。やると決めたことは最後まで頑張れ。」と声をかけてくれました。

あの時の彼らの言葉に私は何度も救われ、あの言葉のおかげで、折れずにここまで頑張りました。彼らには頭が上がらないほど感謝しています。

「ありがとう。」

ここで得られた最高の仲間たちは、きっと一生の宝物です。

最後になりますが、お忙しい中、私たちのために足を運んでくださった先輩方、遠方よりお越しいただき、星屑に投稿する機会を与えてくださった西嶋先生、初心者ばかりの私たちに観望会を開いてくださり、丁寧に解説していただいたり、熊糸祭のために天文部に協力してくださった磯部先生、望遠鏡の使い方を教えてくださったり、天文学について、いろんな知識を教えてくださった艶島台長さんをはじめ県民天文台の皆様、本当にありがとうございました。部員一同、心よりお礼申し上げます。

そして、天文部のみんなへ

「こんな頼りない部長だったけど、よくついて来てくれました。みんなの協力なしには、この成功はあり得なかった。本当にありがとうございます。そして、これからもよろしくお願いします。」

2007年11月7日 付属図書館にて

# ☆☆☆ ちょっと一眼

## Poem & Illustration

寒くなったと思ったらまた暑くなる・・・という繰り返しのこの頃。気候の変化に体が追いつかず、風邪をひく人が増えているようです。みなさんはいかがですか？

日暮れには秋の星座が勢ぞろいし、長く居残っていた夏の大三角形も、すっかり西に低くなりました。木星も、もうあっという間に沈んでしまいます。それに代わって、いよいよ冬の星座が姿を現し始めました。ふたごの足元にいる火星も、シーズン到来です。

・・・と思っていたら、とんでもないニュースが飛び込んできました。17P ホームズ彗星の大バーストです。10月24日にあわてて天文台に駆けつけて、まるで惑星のような姿を見てから、現在の周囲が淡く広がった状態まで、連日の変化にワクワクしながら天文台通い。もう、すっかり睡眠不足に陥っています。



## バースト

ちっともめだたない子  
だったのだけれど

ある日  
一大決心  
ちょっと かたく鎧っていたカラを むいでみた

ほらね  
みんな 大注目  
あんなに輝いているのだもの

はじめは小さな輝きも  
やがて  
ひろがり ひろがり  
みんなを巻き込んでいく

よくみると  
真夜中  
あなたの両手も  
うすく うすく 輝いていて  
カラを脱ぐ  
準備に入っているかもしれない



By Dio

# 10月の県民天文台～運営日誌より～

開台率12日/12日=100% 一般来台者数563名 会員来台54名

日付	天気	来客数	担当運営	記事
5日 (金)	くもり	1名	西嶋、小林J 白鳥  艶島	木星、ベガ、アルビレオ、M57 曇ったいたのですが、雲のすきまに木星や 夏の大三角形が見え、何とも悩ましい天気。 リピーターさんが一人来台され、M57を見たところで完璧に曇りました。
6日 (土)	晴れ	3人 お母さんと元 気な子ども	中島	ベガ、木星、M31、アルビレオ、アンド ロメダγ、h-χ くもりと諦めていたら晴れました！ 実に賑やかな家族でしたが、楽しい観望会 になりました。
7日 (日)	くもり	0人	艶島 小林M	おみやげ写真の整理と書物の整理
12日 (金)	晴れ	7名	西嶋 高田 小林J  艶島	木星、M31、アンドロメダγ、双眼鏡で h-χ 親子ずれ2組。晴れてはいるのに空が明る くぱっとしない見え味。21時にお客様が とぎれたところで閉台しました。
13日 (土)	くもり	0人	中島 西嶋 小林J 小林M 白鳥	トークアバウト（参加18人） 星屑発送作業など 熊大生がたくさん来てくれて大助かりでした。
14日 (日)	くもり	0人	小林M  西嶋	時折晴れ間に星が見えていたが、完全に曇 ったため早めに帰る。  三日月の撮影
19日 (金)	くもり	1人	西嶋 白鳥 小林J	一般客なし サツマイモの差し入れ（東海大の産）ゆで て頂きました。おいしかったです。 坂元氏夜半過ぎまで撮影。うまく撮れたの でしょうか？
20日 (土)	快晴	9人	中島 小林J	M31, M45, h-χ、木星、月、アル ビレオ、アンドロメダγ、ベガなど とてもよくしつけされた子どもたちで、気 持ちよく星見をしました。  UFOの件で話題のIさん来台。たっぷり と話し込んで行かれました。草加せんべい のおみやげをいただきました。

日付	天気	来客数	担当運営	記事
21日 (日)	晴れ	6名	艶島 小林M	月、アルビレオ、WWスター、M57, M31、h- $\alpha$ 、M45
22日 (月)	晴れ	川野さん (K-Astec)	艶島	望遠鏡制御について川野さんと打ち合わせ。自動導入可能で、クランプフリーで動かした後でも、基準星の合わせ直しが可能なシステムに更新する事になりました。
23日 (火)	晴れ	0人	艶島	今夜は十三夜の月。せっかくだから撮影しました。気流が強くてシーイングは安定せず。鋭いピントは望めませんでした。
24日 (水)	晴れ	0人	艶島 小林J 西嶋	17P/ホームズ彗星がバースト！満月近い月があるのに、肉眼で三等星ぐらいの明るさに見えている。まるで恒星みたい。41Cm+8mmでは黄色くてボーッとしたコマに取り囲まれている。低倍率では恒星です。コンデジで手持ち撮影でも写るのだからすごい！写真では、コマの片側が緑っぽく見えた。
25日 (木)	晴れの ちく もり	2名	艶島 小林J 西嶋	雨の予想だったのに今夜も晴れ！17P/ホームズ彗星の撮影にまたまた三人組が勢揃いです。撮影を始めようとしたらカップル一組。双眼鏡で黄色くボーッとした彗星を見て大感激でした。今夜はWebCamも動員しての撮影でした。コマが大きく広がり核から三角形（扇形）に吹き出したジェットが見えていました。
26日 (金)	薄曇り	13名	西嶋 小林J 艶島 白鳥 中尾T	今日も17P/ホームズ彗星が見えた。 月・17P/ホームズ彗星  熱心な親子連れが色々と艶島さんに質問していましたようす。  彗星の撮影といきなり団子作りで盛り上がり？？？
27日 (土)	快晴	15名	中島、西嶋 小林J&M 白鳥、艶島 中尾、熊大 学生(二名)	月、17P/ホームズ彗星  皆さんホームズ彗星がお目当てで来台。写真撮影も順番待ちでした。そんな中来台した熊大生二人。「彗星見た？」「えっ、なんですか？ロニオス彗星ですか？」「えっ・・・・・・。」
28日 (日)	晴れ	昼：500名  夜：6名	艶島、西嶋 中島、小林 M、中尾T	城南町火の君まつりでした。昼間の星を見ようというイベントです。今年は朝から出足がすごく、ずっととぎれることなく来台されました。金星、ベガ 来台者への写真プレゼント。城南町の民話*4+恐竜と星空  月、ホームズ彗星、アルビレオ
31日 (水)	晴れ	0人	艶島	ホームズ彗星撮影。数枚で曇り！

## B5のたわごと

いつまでたっても暑いと思っていたら、前号の星屑が出たあたりから、いきなり寒くなってしまった。熊本は秋が無いなんて言い方をしますが、今年は本当に秋が無かったような気がします。季節は冬に入りましたが、天は暑い…、い、いや熱いですよ。もうご覧になりました? ホームズ彗星です。順調に星屑が届く頃までは、まだ3等星程で見えているはず…。だいぶ広がってきてるので、暗い場所で見た方が良く見えますよ。夜は寒いので、天文台にお越しの際は、防寒対策をして来て下さいね。

### ☆ 1 2月の天文現象&行事☆

- 1日（土） 下弦（21：44）
- 2日（日） カシオペア座Vが極大（6.9～13.4等）
- 3日（月） 179P/ジェディッケ彗星が近日点通過
- 5日（水） 土星が西矩（00:26 -0.7等 視直径18.1" 環長径41.0" 環短径04.8")
- 7日（金） 大雪(たいせつ…寒気ますます盛んとなり、大雪の気配も強くなる)
- 8日（土） トーキアバウト（天文台にて 20：00～ 変更の場合もあります）
- 9日（日） ちょうこくしつ座Sが極大（5.5～13.6等）
- 10日（月） 新月（02：40） 天王星が東矩（07:21 -5.8等 視直径03.5")
- 11日（火） P/1990 V1シューメーカー・レビー1彗星が近日点通過
- 15日（土） ふたご座流星群が極大
- 16日（日） ケフェウス座Tが極大（5.2～11.3等）  
P/1998 S1リニア・ミューラー彗星が近日点通過
- 17日（月） 上弦（19：18）
- 19日（水） 火星最接近（08:46 -1.6等 視直径15.9" 88165305km）
- 22日（土） 冬至(とうじ…太陽が黄道の南限にあり、北半球では最も昼が短い)
- 23日（日） こぐま座流星群が極大
- 24日（月） 満月（10：16）
- 25日（火） 火星が衝（05:55 -1.6等 視直径15.8")  
ふたご座κ星の星食（日本では沖縄のみ見られる）
- 31日（月） しし座Rが極大（4.4～11.3等）

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2007年12月号 通巻393号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01700-5-105697

NPO熊本県民天文台事務局

ホームページ <http://astro.magma.ad.jp/>

メーリングリストの加入申し込み受付中 [kcaohige@kcaohige.com](mailto:kcaohige@kcaohige.com) 中島まで